

CITATION: Beckmann MM, Stock OM. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Pregnancy and Childbirth Group, Issue 4. Art. No.: CD005123. DOI: 10.1002/14651858.CD005123.pub3
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 30 November 2012
Clib issue No.; N/U: 2013 Issue 4; Update

アブストラクト

背景: 経膣出産後の会陰部外傷は短期および長期の有意な罹病率に関連する。会陰部外傷を低減させる方法として、妊娠中の会陰マッサージが提案されている。

目的: 指で行う出産前会陰マッサージが分娩時の会陰部外傷の発生率およびその後の罹病率に及ぼす影響を評価すること。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2012年10月22日)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(コクラン・ライブラリ2012年、第10号)、PubMed(1966年~2012年10月)、EMBASE(1980年~2012年10月)、関連論文の文献リストを検索した。

選択基準: 妊娠期間の最終4週間以上にわたって指で行う出産前会陰マッサージの方法を評価したランダム化および準ランダム化試験。

データ収集と分析: レビューア2名が、個別に選択基準を適用し、選択した試験からデータを抽出し、試験の質を評価した。その後追加された情報を得るため、著者に連絡を取った。

主な結果: 指で行う妊娠中の会陰マッサージとコントロールを比較した4試験(妊婦2,497例)を検討した。試験の質は、すべて良好であった。指で行う妊娠中の会陰マッサージは、縫合を要する外傷発生率の全般的低減に関連し[4試験、妊婦2,480例、リスク比(RR)0.91、95%信頼区間(CI)0.86~0.96、治療必要数(NNTB)15例(10~36例)]、会陰マッサージを実施した妊婦は会陰切開を受ける確率が低かった[4試験、妊婦2,480例、RR 0.84(95%CI 0.74~0.95)、NNTB 21例(12~75例)]。以上の結果は、経膣分娩の経験がない妊婦でのみ有意であった。1度または2度の会陰裂傷、もしくは3度または4度の会陰部外傷の発生率に差異は認められなかった。出産後3カ月の時点で、以前に経膣分娩を経験していた妊婦のみが、疼痛発生率の統計学的に有意な低下を報告した[1試験、妊婦376例、RR 0.45(95%CI 0.24~0.87)、NNTB13例(7~60例)]。器械分娩、性的満足感、または尿失禁、大便失禁、ガス失禁の罹患率について、会陰マッサージを実施した妊婦と実施しなかった妊婦の間に有意差は認められなかった。

レビューアの結論: 指で行う妊娠中の会陰マッサージは、会陰部外傷(主に会陰切開)の確率および持続的会陰痛の報告を減少させ、総じて妊婦による許容性が良好であった。そのため妊婦には、会陰マッサージの利益の可能性を認識させ、マッサージ方法に関する情報を提供する必要がある。

平易な要約(Plain language summary)

会陰損傷を低減する妊娠中の会陰マッサージ

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 27日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。